

野菜の需給・価格動向レポート（平成29年11月20日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報				11月の価格情報		11月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月上旬までの見通し	「圖の見方」 平均価格 見通しの価格水準 現時点の価格水準 平均価格 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	11月上旬				
		中旬	下旬							
キャベツ	74.19	49 (66%)	59 (80%)	72.93	84 (116%)	・7.119t (108%)	千葉(38), 愛知(25), 茨城(21)	→	千葉産は、台風21号の影響により小玉傾向で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。愛知産は豊作傾向であったものの、台風21号及び22号の影響により正品率が低下し、腐りも発生していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、台風21号による冠水等で品質低下がみられることから、引き続き平年より少なめの見込み。	
	88.91	51 (58%)	65 (73%)	76.91	86 (112%)	・2.047t (97%)	愛知(57), 茨城(19)			愛知産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
たまねぎ	93.34	66 (71%)	68 (73%)	83.77	71 (84%)	・8.702t (113%)	北海道(96)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作付面積の増加に加え、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷は平年並みと見込まれるものの、市場には潤沢感があり引きが弱いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
	93.34	70 (75%)	71 (76%)	83.77	74 (88%)	・2.971t (83%)	北海道(87), 兵庫(12)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	136.25	291 (214%)	379 (278%)	136.25	317 (233%)	・2.738t (105%)	青森(16), 秋田(15), 茨城(10), 千葉(9)	→	青森産、秋田産及び新潟産は、出荷終盤を迎えており、生育は概ね順調で台風の影響は軽微なことから、引き続き平年並みのまま11月末に出荷終了の見込み。茨城産は、台風により収穫が遅れているため、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、台風21号の強風で曲がりなど正品率に影響がでており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	467.01	339 (72%)	399 (85%)	467.01	782 (167%)	・131t (84%)	奈良(20), 徳島(19), 三重(18), 香川(13)			
はくさい	56.81	46 (80%)	61 (107%)	40.32	56 (140%)	・7.535t (136%)	茨城(91)	→	茨城産は、台風21号等の影響で、一部のほ場で冠水被害が発生し、イタミが散見されることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	69.44	40 (58%)	64 (92%)	55.95	77 (139%)	・2.809t (113%)	茨城(66), 長野(16)			
ほうれんそう	385.11	399 (104%)	647 (168%)	385.11	881 (229%)	・446t (55%)	群馬(38), 茨城(21), 栃木(12)	→	群馬産、茨城産及び栃木産とも、10月の曇雨天や台風及びその後の日照不足等による生育不良がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 群馬産、茨城産及び栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	461.74	530 (115%)	721 (156%)	461.74	1006 (218%)	・155t (48%)	岐阜(48), 徳島(22)			
レタス (結球)	158.27	70 (44%)	148 (93%)	143.63	271 (189%)	・2.150t (58%)	茨城(65), 静岡(8)	→	茨城産は、10月の天候不順や台風21号の降雨による影響で、生育遅れや正品率の低下が見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均を上回って推移する見込み。	
	152.57	78 (51%)	165 (108%)	154.61	294 (190%)	・763t (63%)	兵庫(38), 茨城(32), 長崎(10), 徳島(8)			
きゅうり	289.03	228 (79%)	597 (207%)	289.03	509 (176%)	・3.021t (97%)	埼玉(30), 群馬(24), 宮崎(15)	→	埼玉産及び群馬産は、台風後の好天により遅れていた生育が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、11月の好天により生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産、群馬産及び宮崎産の出荷が平年並みと見込まれ、中旬より西南暖地産の出荷が本格化することから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	298.96	240 (80%)	661 (221%)	298.96	523 (175%)	・798t (94%)	宮崎(45), 高知(22), 群馬(15), 大阪(9)			
トマト (大玉)	347.41	360 (104%)	336 (97%)	347.41	351 (101%)	・3.489t (108%)	熊本(37), 愛知(17), 千葉(12)	→	熊本産は、低温により生育に影響がでており、現在少なめの出荷であるものの、今後抑制作の出荷増が見込まれることから、平年並みの出荷に回復する見込み。愛知産は、生育は概ね順調で、10月の台風の影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、抑制作が終盤を迎えており、越冬作とともに生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平年並みで推移する見込み。	
	371.67	381 (102%)	362 (97%)	371.67	385 (104%)	・1.177t (105%)	熊本(67)			
なす	301.00	221 (74%)	353 (117%)	301.00	480 (160%)	・654t (61%)	高知(62), 福岡(13)	→	高知産は、下旬には出荷のピークを迎え、台風後の好天により生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、台風後の好天により生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷は平年並みと見込まれるものの、下旬より加温作の入荷が増えると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	263.21	217 (83%)	373 (142%)	263.21	490 (186%)	・289t (74%)	高知(41), 熊本(23), 福岡(16), 岡山(10)			
ピーマン	263.58	262 (99%)	366 (139%)	378.83	606 (160%)	・721t (85%)	茨城(54), 宮崎(21)	→	茨城産は、10月の曇天や台風21号により抑制作に着果不良がみられ、切り上がりが早まると見込まれることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、8月の低温及び10月の曇雨天により着果不良がみられたものの、11月に入ってからの好天により生育は概ね良好で、現在少なめの出荷は平年並みに回復の見込み。高知産は、11月に入ってからの好天により、遅れていた生育が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産及び高知産の出荷は平年並みに回復又は平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	296.27	285 (96%)	359 (121%)	371.29	597 (161%)	・227t (62%)	宮崎(32), 高知(23), 茨城(13), 鹿児島(12)			
だいこん	67.55	61 (90%)	89 (132%)	67.55	83 (122%)	・4.237t (89%)	千葉(64), 神奈川(17)	→	千葉産及び神奈川産は、台風21号による塩害等が発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産及び神奈川産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	76.48	69 (90%)	96 (126%)	76.48	99 (129%)	・1.451t (82%)	石川(21), 長崎(18), 和歌山(13), 徳島(11), 鹿児島(10)			
	123.08	78 (63%)	84 (68%)	105.86	118 (112%)	・3.301t (92%)	千葉(54), 北海道(25)			
にんじん	123.11	70 (56%)	84 (68%)	104.49	132 (126%)	・1.416t (117%)	北海道(41), 長崎(31), 千葉(8)	→	千葉産は、10月の曇天や台風の降雨により、肥大遅れがでており、正品率が低下しているものの、概ね順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、出荷終盤を迎えており、台風の影響も軽微で作柄もよく、平年並みのまま月末で出荷終了の見込み。 千葉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、正品率が低下していることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報				11月の価格情報		11月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	11月上旬			
		中旬	下旬						
いも類	さといも	220.97	274 (124%)	268 (121%)	220.97	271 (123%)	・603t (104%)	埼玉(61), 千葉(12)	<p>埼玉産は、8月の曇雨天の影響を受け、肥大が遅れたものが出荷時期となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、空梅雨と8月の曇雨天で肥大が進まず小玉傾向となっていることから引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</p>
		217.56	291 (134%)	334 (154%)	217.56	303 (139%)	・223t (131%)		
	ばれいしょ	96.99	89 (92%)	88 (91%)	96.99	89 (92%)	・3,445t (91%)	北海道(98)	<p>北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、大玉は少ないものの、作柄は良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p>
96.99		81 (83%)	85 (88%)	96.99	84 (87%)	・1,507t (106%)	北海道(95)	北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg。上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	10月の価格情報				11月の価格情報		11月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月上旬までの見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	11月上旬			
		中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	408.61	359 (88%)	485 (119%)	302.07	503 (167%)	・577t (83%)	埼玉(25), 香川(16), 愛知(16)	<p>埼玉産は、生育期の曇雨天により一部ほ場で黒腐病の発生や台風等による強風でイタミなどが発生し、正品率が低下していることから、引き続き少なめの出荷の見込み。香川産は、11月の好天により生育が回復していることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。愛知産は、11月の好天により生育は順調で、台風21号による正品率の低下はみられるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p>
		424.92	413 (97%)	487 (115%)	369.86	592 (160%)	・132t (70%)	徳島(25), 鳥取(18), 北海道(15), 米田(14)	
根菜類	ごぼう	252.90	304 (120%)	287 (113%)	247.06	271 (110%)	・315t (99%)	青森(68), 茨城(13)	<p>青森産は、9月の台風の影響が残り肥大が緩慢になっていることや、他の品目の農作業遅れも影響し、収穫が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、台風21号及び22号の影響で、肥大遅れおよび収穫遅れが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</p>
		173.20	217 (125%)	200 (115%)	179.28	180 (100%)	・190t (88%)	青森(36), 茨城(30)	
	かぶ	138.24	104 (75%)	127 (92%)	123.51	171 (138%)	・312t (70%)	千葉(77)	<p>千葉産は、秋冬作の盛期であるものの、台風21号及び10月中旬からの低温で小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</p>
203.64		156 (77%)	182 (89%)	146.85	220 (150%)	・45t (67%)	石川(28), 千葉(26), 福岡(22)	千葉産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - かぶの需給動向について -

今回はかぶを紹介する。

**原産地と日本への渡来**  
 かぶの原産地は中央アジア発祥という説と、これにヨーロッパ西部の海岸地帯を加えた説があり、日本へは、中国またはシベリア方面から伝来したといわれている。中部地方では縄文時代後期から焼畑で栽培されていたといわれ、最も古く伝播した野菜のひとつとされている。「日本書紀」(720年)には、持統天皇が主要な穀物のほかに、その穀物をを支えるものとしてかぶ等の栽培を奨励されるなど、かぶは重要な食料として全国で栽培されるようになったといわれている。こうして、各地の気候や土壌条件等に応じて品種が分化し、特色ある地方品種が生まれてきた。

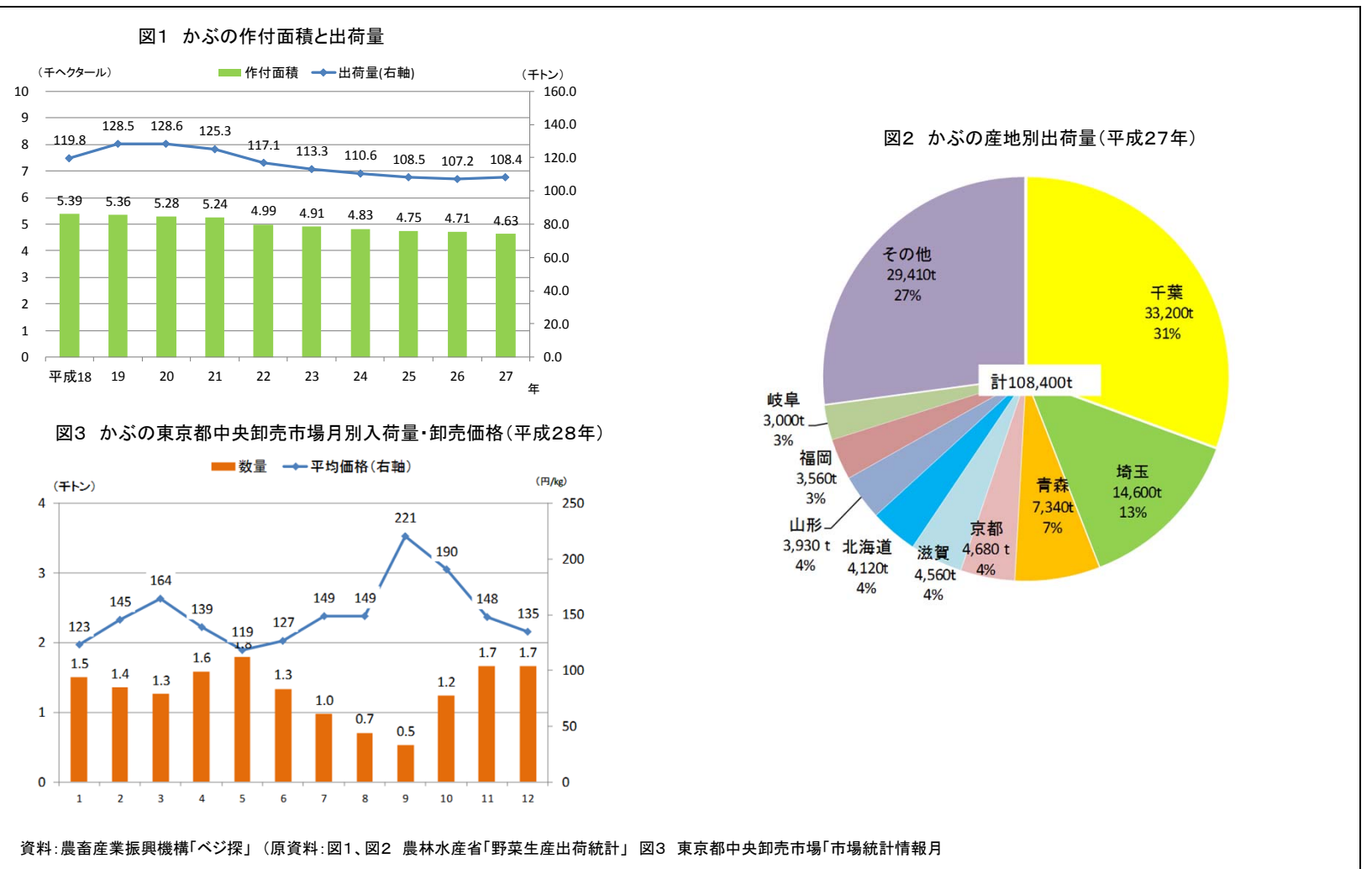
**主な種類と特徴**  
 かぶは、アブラナ科アブラナ属の植物で、キャベツやはくさいと同じ仲間である。大きさにより大かぶ、中かぶ、小かぶに分類されるほか、白かぶ、赤かぶ、青かぶ等、色による分け方もある。「すずな」はかぶのことで、古来から重要な野菜として食されてきた。山形県の「温梅かぶ」や、日本で最も大きく、「千枚漬け」の材料として有名な京都の「聖護院かぶ」、金沢を代表する冬の味覚「かぶら寿司」の材料として欠かせない石川県の金沢青かぶ等、かぶには地方特産の在来種が数多く存在している。

**生産状況等**  
 「野菜生産出荷統計」によると作付面積は平成18、19年に5,300ヘクタールであったものが、平成27年には4,600ヘクタールと微減傾向にある。出荷量は、平成20年の12万8600トンとピークに減少傾向にあり、平成27年には10万8400トンと、平成20年と比べて84%となっている。また、家庭用で一般的に消費されているかぶと千枚漬けなどの加工用に用いられる大かぶとが生産されている(図1)。

平成27年の都道府県別出荷量では、最も多いのが千葉県で3万3200トン、全国の31%を占めている。2番目が埼玉県で14,600トン(同13%)、3番目が青森県で7340トン(同7%)となっている。

東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は春と冬に1600~1800トンと最も多くなっている。

**栄養価と効用**  
 かぶは根と葉で大きく栄養が異なる。根は淡色野菜でビタミンCやカリウムをやや多く含む。葉は緑黄色野菜で皮膚や血管の老化を防ぐビタミンCや、皮膚や粘膜を健康に保つビタミンA、細胞の老化を防ぐビタミンE等、多くのビタミン類を含む。これらのビタミンはともに強い抗酸化力を持ち、有害な活性酸素から細胞を守る働きがある。また、骨や歯を形成し、筋肉や神経の働きを調整するカルシウム等、ミネラルも多く含む。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メルマガジンから登録してください。  
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。  
 ※無断転載禁止 - レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。